

後発医薬品を調剤しにくい主な理由（保険薬局調査）

医薬品の種類		調剤しにくい主な理由（主なもの、自由記述式）
1	抗悪性腫瘍剤	・ 効果・品質への不安 ・ 適応症違いも多く確認が必要 ・ 備蓄の問題
2	精神神経用剤	・ 精神科の患者は変化することに対して不安が強い
3	免疫抑制剤	・ 後発医薬品の情報が少ない ・ 臓器移植の患者は負担割合がないことが多い。万が一、副作用等により服用中止になると健康被害が出る。
4	抗不安剤	・ 患者にこだわりが強く拒む ・ 患者が不安に思う
5	催眠鎮静剤	・ メンタル面が効果に影響を及ぼすことがある
6	抗てんかん剤	・ 血中濃度をシビアに見ていく薬に関しては変更しにくい
7	不整脈用剤	・ 説明しても不安を持つ患者が多い ・ 医師の意向 ・ 変更をした患者の数名が体調不良を起こした ・ 効かないと思われたら、説明し難い、責任をもてない
8	バイオ後続品	・ 情報が少ない ・ 後続品という扱いのため処方変更が難しい
9	血圧降下剤	・ 患者が変更を嫌がる
10	糖尿病用剤等	・ 血糖降下に差が出たと医師から指摘を受けた・専門医から処方を受けていて、変更不可となっている
11	解熱鎮痛剤	・ 痛みの治まり方に違いがあると言われる
12	抗アレルギー剤	・ 医師の経験に基づき、変更不可の処方せんが出る ・ 長期の服用の際の効果が確認できない
13	消化性潰瘍用剤	・ 医師がジェネリックは効かないと説明している
14	高脂血症用剤	・ 医療費が全額免除されている患者、経済的に問題のない患者のどちらも変更が難しい